

2017 年度事業概要

1. 市民への情報提供・相談事業

(1) 情報サービス関連

①機器による情報提供 (予算=各項目内訳のとおり)

インターネットや海外の TV 番組など、国際交流に役立つ情報が手軽に楽しめる。

<1 階 交流ロビー PC2 台> (予算、使用料等=後述⑨のとおり)

a. インターネット (ホームページ閲覧やフリーメールの利用が可能)

一般来館者が実費負担でインターネットを利用できるサービス。これにより世界各国の最新情報の収集が可能。

ブラウザは 10 言語での対応が可能。

b. パソコン

ワード、エクセルなどのソフト (10 言語対応) の利用が可能。インターネットとの併用も可能。

c. メッセージボード (無料)

個人間で国際交流や生活に役立つ情報を交換できるコーナー。協会ホームページ上にも設置しているため、外部からもアクセス可能。

d. 協会ホームページ (無料)

<1 階 交流ロビー TV5 台> (予算=1,171 千円)

a. CS 放送 「BBC ワールドニュース」

英国の 24 時間ニュースチャンネルを放映。

b. CS 放送 「CCTV 大富」

中国最大のテレビ局「中国中央電視台」の番組を放映。

c. CS 放送 「KBS world」

韓国の今を紹介する番組を放映。

<大型プロジェクター等>

a. 大型プロジェクター

協会事業案内や概要を紹介。イベント時等にビデオの放映も可能。

b. ロビー大型ディスプレイ

交流ロビーに設置している大型ディスプレイにより、BBC ワールドニュースや CCTV (中国語)、KBS world (韓国・朝鮮語) の CS 放送を放映。

②情報サービスコーナーの運営 (予算=65 千円)

外国籍市民が京都で生活していく上での不便・不満を解消して、より快適な生活を実現するための情報提供。その他、外国人観光客・旅行者への観光・旅行案内、一般市民から寄せられる外国事情・留学等についての各種情報提供も実施。電話・e-mail で対応。

職員と協会ボランティア「市民生活アドバイザー」(後述) による対応。2013 年 2 月より JNTO (日本政府観光局) の「外国人観光案内所」に認定されており (3 年毎の認定更新)、観光情報提供の一層の充実を図る。

- ③メッセージコーナー（予算＝上記②を含む）
国際的なイベントや展覧会の案内をはじめ、国際交流の推進に役立つ各種情報及び外国籍市民の日常生活に必要な情報等を随時掲示。
協会実施の事業情報提供コーナーと共に、メッセージボードを設置し、個人レベルでの文化交流や情報交換の場として運用（A5版専用紙での掲示）。メッセージボックスは有料（1ヵ月2,000円と3,000円 最長12ヵ月）で貸し出し。
- ④インターネットによる情報受発信事業（予算＝876千円）
（日本語、英語、韓国・朝鮮語、中国語、スペイン語）
インターネット上の当協会ホームページより協会事業の案内や実施報告、kokoka 京都市国際交流会館紹介及び国際交流に関する各種情報等を発信。多言語によるメッセージボードにより、外国人自らによる情報発信が可能であり、情報の多言語化を図る。また、トップページのバナー広告も収入源としても重視。イベントの参加受付及び登録者へ最新事業案内を送るメールマガジンを発行し、より即時性を持ち、かつ広範囲にわたる情報の提供・発信を行う。facebook を活用した情報の受発信も実施。
- ⑤「外国人のためのお部屋情報 House Navi」の運営
日本賃貸住宅管理協会と協働で運営する「外国人のためのお部屋情報 House Navi」で、物件情報及び多言語対応可能な不動産業者の情報を提供する。
- ⑥くらしと文化の情報誌『LIFE IN KYOTO』の発行（予算＝752千円）
協会ボランティアの取材・編集・翻訳により、外国籍市民が関心を持つ生活関連情報・京都観光日本の歳時記・kokoka 関連情報等の読み物を掲載した情報誌『LIFE IN KYOTO』（各号英語900部、日本語800部、各6ページ、フルカラー）を隔月で年間6回発行。ホームページ上では英語、日本語に加え中国語でも順次公開。留学生寮や大学等を中心に約40ヵ所で配布。
また、企業等の広告を募集。（A枠31ミリ×95ミリ：1万円/号、B枠31ミリ×192ミリ：2万円/号、C枠135ミリ×95ミリ4万円/号）
- ⑦『京都市生活ガイド』の配布（予算＝443千円）
英語版/中国語版/韓国・朝鮮語版/スペイン語版/日本語版のPDF版の提供、および2016年9月発行の冊子（英語版）の継続的配布。初めて京都で生活する外国人の方々が、安心して有意義に暮らせるように、医療、行政、災害、コミュニケーション、便利な情報等から困ったときの相談窓口まで、図版や地図や写真入りでわかりやすく説明。巻末には各種施設・外国語での診療可能な病院等を掲載し、当協会HPからのPDF版のダウンロードによる提供、およびweb版の閲覧も可能。

⑧地図『GUIDE TO KYOTO』販売、『KYOTO 避難所 Map』配布
(予算=42 千円)

a. 『GUIDE TO KYOTO』

生活上必要なさまざまな施設を日英併記で掲載した地図。
外国籍市民や旅行者、一般を対象に販売。一部 200 円。

b. 『KYOTO 避難所 Map』

2014 年度に作成した、大規模災害時の京都市内避難所・広域避難場所
Map (日英版) の継続的配布。

⑨情報機器及びメッセージボックスの有料サービス (予算=545 千円)

a. インターネット 使用料: 200 円/30 分

b. パソコン 使用料: 200 円/30 分

(ワープロ機能・多言語対応)

c. ファックス 使用料: 100 円+通話料

d. コピー機 使用料: 白黒 10 円/1 枚

カラー (B4 まで) 50 円/1 枚

カラー (A3) 80 円/1 枚

e. メッセージボックスの貸出 使用料: 2,000 円・3,000 円/1 ヶ月

最長 12 ヶ月 (再掲)

(2) 図書・資料室の運営 (予算=3,881 千円)

より多くの市民の方々が利用しやすくなるように、「図書・資料室」の独自性を持たせて運営。そのために資料等を調べやすく整備し、「特定の分野を調べるなら kokoka 京都市国際交流会館へ」のイメージをつくる。国際理解教育と外国人の生活にかかわる分野を重視して蔵書を収集。

①国内外の新聞・雑誌の整備

国内外の情報を提供するために、新聞・雑誌を閲覧に供する。

②図書整備

a. 日本人対象「海外に出てゆくため」

ア. 留学 イ. 海外旅行

ウ. 海外生活 (ワーキングホリデイ・ロングステイ・移民・転勤)

エ. ボランティア (国内・海外) オ. ホームステイ受入時の参考書

カ. 日本・京都を外国人に紹介する参考書

キ. 語学学習参考書 ク. 外国人雇用関係

ケ. 言語教授法の入門図書 コ. 国際就職 (海外・国内)

サ. 国際理解・共生

b. 外国人対象「日本での生活に役立てる」

ア. 母国の新聞・雑誌 イ. 日本語の勉強の本

ウ. 日本の大学入学に役立つ資料 エ. 旅行書 (国内・海外)

オ. 日本での生活に役に立つ本 (法律、ビザ、医療、その他)

カ. 日本・京都紹介の本

C. 海外の絵本: これまで収集した絵本の目録を作り上げ、20 年以上開催してきた「世界の絵本展」の経験を蓄積してきている。

③学習コーナー

外国籍市民のための日本語学習教材や、留学希望者のための TOEFL 模擬テストなどの教材が DVD、CD、テープで利用可能。

④図書・資料室ビデオライブラリー

文化/生活/日本語学習等のビデオ（100 本）及び DVD が視聴可能。持ち込みソフトの使用も可能。デッキは PAL/SECAM/NTSC 方式に対応。

⑤ロングステイセミナー（予算＝66 千円）

海外での「生活」に役立ててもらおう情報を提供し、相談に応じるセミナー。図書・資料室の蔵書も活用。2004 年度より「ロングステイ財団」の協力のもとに開始、継続して毎年開催。

⑥ほっこり BOOK カフェ（予算＝28 千円）

多文化共生の考えを理解するため、京都で様々な活動を行う外国人や、外国にゆかりをもつ人をゲストスピーカーに迎え、多様なものの見方や考え方の存在に気付くことを目的とする。図書・資料室の蔵書も活用。過去のテーマ：「日本語で見る世界」、「スリランカと日本 わたしが感じた文化・伝統・習慣」等。年 2 回程度、図書月末閉室日に開催。

(3) 相談関連

①外国人のための生活相談（予算＝情報サービスコーナーの運営を含む）

外国籍市民の日常生活上の疑問や困りごとをはじめ、情報サービスコーナーにおいて情報提供の一環として各種相談に対応。職員と協会ボランティア「市民生活アドバイザー」（後述）、外国籍市民行政サービス利用等通訳・相談事業相談員（後述）による対応。また、子育てなどの相談をはじめ、多岐にわたる相談ニーズに応えるため、他の専門相談機関と連携して対応できるよう検討。

②外国人のための法律相談（予算＝1,029 千円）

法律の専門家による判断を必要とする相談に対処するため、京都弁護士会の協力のもと、個別相談をおこなう。外国籍市民行政サービス利用等通訳・相談事業相談員（後述）育成のため、相談員が同席。原則として毎月第 1・3 土曜日に実施。

③行政書士による出入国管理手続き相談（予算＝401 千円）

出入国管理に関する具体的な手続きについて、京都入管業務行政書士協議会の協力のもと、個別相談を行う。外国籍市民行政サービス利用等通訳・相談事業相談員（後述）育成のため、相談員が同席。原則として毎月第 1・3 土曜日に実施。

④カウンセリング・デイ（予算＝417千円）

外国籍市民が日本での暮らしの中で抱える諸問題のうち、法律、出入国管理、税金、社会保険・年金・労働問題、メンタルヘルスなど専門家による判断を必要とする相談に対応するため、各相談機関との連携強化を図り、各専門家を相談員として招き相談会を実施。メンタルヘルスについては「カップル・カウンセリング」も実施、継続的にPR。

年4回開催。相談の場に同席し、サポートを行っているボランティア通訳のための研修会（法律）を継続的に実施。

⑤外国籍市民行政サービス利用等通訳・相談事業（予算＝5,154千円）

行政サービスの利用や手続き等について、外国籍市民、区役所・支所、事業所および本庁等から、電話による通訳・相談に対応する事業。通訳者は、一定の通訳能力および行政等に関する知識を有するものとし、ローテーションにより対応する。通訳技術および行政窓口業務等に関する研修を実施。

英語（火曜日・木曜日）、中国語（水曜日・金曜日）、いずれも9時から17時まで受付。

また、京都市保健福祉局の新生児訪問や乳幼児検診などに対し、各保健センターの依頼を受けて通訳者を派遣。

【新規】10周年記念事業（予算＝2,300千円）

2017年10月に10周年を迎えるにあたり、2016年に実施した調査事業の結果を踏まえたとりくみを実施。（自治体国際化協会助成金申請）

a.調査結果や構築してきた通訳相談技術を調査報告書として作成配布

b.外国籍市民が出産・育児で必要となる情報をまとめたハンドブックを作成配布（1,000部）

c.保健センター、外国人コミュニティ及び支援団体と連携体制を図るための検討会議や参加型イベントを開催（外国籍市民と母子保健をテーマにしたイベント 親子向けプログラム）

2. 国際交流団体等との連携事業

(1) 京都国際交流団体情報ネットワーク

(kokoka 国際交流団体ねっと) (予算=95 千円)

京都地域を中心として活動する国際交流団体のデータベースを整備。協会に関わる団体のネットワークとして、ホームページで公開する。新規登録団体も常時募集。

(2) 共催事業・後援事業 (予算=439 千円)

国際交流活動の促進を図るため、当協会の設立趣旨や事業目的に合致するものについて共催・後援を行うことにより団体を支援し、申請者と協会の双方の活動を推進することを目的とする。

(3) 企業等コラボ事業 (予算=424 千円)

外国人の定住化に伴い企業等も外国籍市民をマーケットの対象と認識し商品開発、販売、広報に力を入れているため、一定条件のもと企業等とのコラボレーションによる事業に取り組み、協会の持っている強みを生かしたブランドビジネスを展開する。

3. 共生社会を促進していくための担い手育成事業

(1) 国際交流活動グループ育成支援事業「COSMOS」 (予算=39 千円)
外国籍市民を対象とした日本文化紹介、外国人による文化紹介等を希望するグループを広く募集し、育成する。運営・経費等を含め、自立したボランティア活動継続の第一歩となるよう会場の提供(会議室、第2・4土曜日)、広報、運営のアドバイス等を行う。6ヵ月毎の2期制。同一団体につき最長2年まで活動可。

(2) ボランティア活動育成事業 (予算=2,500 千円)
外国籍市民をはじめとした、異なる文化背景を持つ人々との相互交流、相互理解の促進を図ることを目的として様々な交流・支援事業を行う。市民がボランティア活動に主体的・自主的に関わることで、京都の国際化や共生社会について考えるきっかけとなり、よりよい地域社会の構築につながるなどの考えから、ボランティア活動の機会や人材の育成に対するサポートを行う。

①各ボランティア活動

a.ホームステイ

短期ホームステイの受け入れ。日本家庭の日常生活や日本文化に関心のある外国人を一定期間家庭に受け入れ、家族の一員として共に生活する中で相互理解と友好を深める。外部団体からの依頼に基づき受け入れを行う。

b.ホームビジット

京都市を訪れる外国人旅行者を対象とした家庭訪問プログラムで、日本家庭の日常生活や日本文化に関心のある外国人を受入れ、家庭でできる日本・京都紹介を通じて相互理解と友好を深める。

c.留学生交流ファミリー

京都に住む留学生の日本滞在期間中の相談相手として精神的な支えとなるなど、普段の生活の中で相互の理解と交流を深める。交流会も実施。

d.くらしと文化の情報誌『LIFE IN KYOTO』の取材・編集・翻訳(再掲)

e.市民生活アドバイザー

情報サービスコーナーにおける様々な生活相談に対し、同じ京都で生活する住民としてアドバイスを行う。

f.外国籍市民向け京都紹介ツアー「京都案内倶楽部」

京都を外国人に紹介するための1日ツアーおよびミニツアーの企画・運営。観光地だけではなく京都の魅力を紹介する。年10回程度開催。

また外国人観光客を対象に南禅寺スポットガイドを月2回実施。(1~2月は休止)

g.多言語バンク(英語以外)

外部からの交流・支援活動に関する通訳翻訳依頼に基づきバンク登録者に要請。

h.災害時通訳・翻訳ボランティア

外国籍市民を災害弱者にしないために災害時のサポート体制を整える。外国人向け防災訓練の実施や多言語支援センター設置訓練等に参加し、災害時に備える。

i.市立小中学校日本語ボランティア

京都市教育委員会が実施する「京都市立小・中学校外国人児童・生徒等に対する日本語指導ボランティア派遣事業」に派遣するボランティアの募集を行う。日本語指導の必要な児童・生徒に対してボランティアが学校に出向いて学校生活、日常生活に必要な日本語指導を行い、子ども達のサポートを図る。研修やミーティングは京都市教育委員会と共に開催。

j.子育て支援「子育てステーションホッとチャット」

子育て中の保護者（外国人日本人問わず）の集いの場。日本の子育て、外国の子育て等について参加者が語り合い交流することを目的に行う子育て支援活動。

k.イベント企画運営

kokoka 国際交流会館オープンデイ等の協会事業にもボランティアの活動の場を広げ、職員と一体となり事業の推進を図る。

1.チューターによる日本語クラス

外国籍市民の日本語習得をすすめるとともに同じ地域に住む住民同士の学びと交流の場になることを目指し、「暮らしに役立つ日本語」の学びの場をチューター（ボランティア）により提供。また、地域における交流につながるようなイベントを企画し、チューターが学習者の地域社会活動参加を支援できるような取組みも行う。

また、各クラスの円滑な運営をリードし、チューターと協会のパイプ役を担う「コーディネーター」を設置。

（日本語クラスのコンセプト）

- ア.生活の場で使う日本語の習得
- イ.学習者のニーズをとらえる
- ウ.狭義の日本語習得に留まらない
- エ.出会いと交流の場を提供
- オ.学習者とチューター（ボランティア）の対等な関係

m.koko Kid's

外国につながる子どもたち（6歳～15歳帰国子女含む）と保護者たちの交流の場。日本の遊びや文化体験を通して日本語コミュニケーションの場を提供する。

②ボランティア活動への支援

ボランティア活動の充実及びボランティアの活動支援を図る。

- a.ボランティア募集（年度途中の募集も実施）
- b.ボランティア研修の実施
- c.ボランティア定期活動、自主事業に対する支援
- d.ボランティア間の交流促進
- e.**kokoka** ボランティアブログの運用

③ボランティアデータベースシステムの運用

ボランティアの登録情報を管理するデータベース。

年間延べ登録数が600人を超える中、登録管理のための各種データ量が膨大になっている。データの整理と情報の一元化を図るとともに、各手続きの簡素化やリソースの効率的な活用をすすめる。

④ボランティア人材育成講座

ボランティアに学びの場を提供し、東アジアに対する知識と理解を深める。また、ボランティア活動に興味を持っている地域の住民にも参加してもらい、その過程を通して、お互いの交流や連携を強化するとともに、今後のキーパーソン育成につなげる。講座終了後、ボランティアによるイベントを開催。

(3) インターン受け入れ事業 (予算=0円)

学生等が企業・公的機関等において実習・研修的な就業体験を行うインターンシップ制度を導入。実習を通し、協会事業への理解を深め、国際交流におけるより実践的な担い手育成につなげる。

(4) 社会見学受け入れ事業 (予算=42千円)

社会見学授業として、kokoka 京都市国際交流会館の団体見学を受け入れる。国際交流施設の機能紹介や外国籍市民を取り巻く状況説明、事業概要説明等の後、現場で働くスタッフやボランティア活動の見学や、留学生に出身国との文化の違いや遊び、京都での生活等について教えてもらい、外国人が地域社会で生活する同じ住民であることを理解してもらう。

(5) ボランティアによる日本語教室支援 (予算=200千円)

kokoka 京都市国際交流会館以外で行われる、京都市内におけるボランティアによる日本語教室の開講時において、その運営や広報の支援を行う。

4. 異文化理解・多文化共生社会への促進事業

(1) 異文化理解・多文化共生社会を促進するためのフォーラム・セミナー等

①フォーラム「チョゴリときもの」 (予算=425 千円)

日本社会における在日コリアンの歴史・現状に対する理解を深めることを目的としたパネルディスカッション。シリーズⅠ「チョゴリときもの」に続き、シリーズⅡ「チョゴリときもの」を2013年度より開始。これまでの個人史を話す形式から、時代と共に多様化する考えや意見を、在日コリアン・日本人も含めて意見を交換し、互いに理解を深める。内容はこれまで同様HP上に掲載。

(2) 異文化理解を促進するための交流活動

①kokoka オープンデイ (予算=4,166 千円)

外国籍市民を含むより多くの市民に kokoka 京都市国際交流会館の存在をアピールすると共に多言語情報や相談窓口等協会事業の周知・理解を広げる。協会登録ボランティアや、当イベントに参加協力するボランティアにも企画・運営に関わってもらう市民参加型の催し。各種交流イベント、講演会、世界の食や文化の紹介等を行う。

②国際理解プログラム「PICNIK」 (予算=406 千円)

京都市教育委員会の協力を得て、小・中学校への留学生講師派遣システムを運営。京都市がすすめる「留学生が活躍するまちづくり」の推進により、小中学校の留学生への謝礼予算が増額されたことから、派遣件数が大幅に増加している。これに対応した体制を整えるとともに、登録留学生を随時募集し、数と国・地域の充実を計る。また、このプログラムの登録留学生をサポートが必要な児童・生徒が在籍する学校に派遣し、母語による学習支援や会話のサポートなども行う。教員や児童・生徒、保護者に向けたPRイベント「子どもワールドフェスティバル」(京都市国際教育グローバルキッズ研究会主催)を共催で実施。

③国際理解教材 貸出 (予算=260 千円)

京都市の小、中、高校や団体における国際理解教育の活性化・充実化を図るため、要望が高い教材について修理・買い足す等して充実する。

④京都市国際文化市民交流促進サポート事業 (予算=300 千円)

「京都市国際文化市民交流促進サポーター」を派遣し、市内様々な団体の催しで講演や文化の紹介をし、地域での多文化交流の輪を広げる。新規サポーターが登録されれば、事業の周知とサポーターの紹介を兼ね、国際理解ミニ講座を開催する。将来的に地域において広く実践していくための前例として実施。

⑤世界の絵本展 (予算=280千円)

絵本を実際に手に取ることによって広く異文化に親しむ機会を提供する。図書・資料室所蔵の91カ国地域の絵本(約2,000冊)の中からテーマを決めて紹介。テーマによって関係団体と連携、絵本の販売等も実施。8月開催。

⑥京都とつながる世界歴史都市絵本展(新規)

世界歴史都市連盟(事務局:京都市)に加盟している国々で出版された絵本及び関連書籍を図書・資料室内の特設コーナーにて展示・紹介し広くPRにつなげる。

⑦KYOTO・ふれあい講座「はじめてのお茶」(予算=505千円)

日本の代表的伝統文化の一つ「茶道」の一端に触れてもらう体験講座。外国籍市民が主な対象。3ヵ月を1期/12回とし、通年で4期実施。また観光客等を対象にデモンストレーション(体験コース)も実施。

デモンストレーション 1回/1,000円

(受講料/1期分(12回)/円)

	茶道
外国人	7,000
日本人	20,000

⑧やさしい日本語講座(予算=699千円)

やさしい日本語講座では、I(入門、原則金曜日、午前・夜間の2回)、II(ひらがな・カタカナをすでにマスターした人が対象。原則金曜日、夜間の1回)の2クラスを開設。原則3ヵ月を1期/12回とし、通年で4期実施。第2期は短期滞在者も受講しやすいようにサマーコースとして、1期を1ヵ月半、日本文化講座も併設して実施。

受講料/1期分(12回)/7,000円(サマーコース8,000円)

(3) 多文化共生社会へのまちづくり

①医療通訳派遣事業(予算=6,095千円)

「固定型」「派遣型」による医療通訳派遣を実施。派遣先は醍醐の医仁会武田総合病院、京都駅前の康生会武田病院、京都市立病院、京都桂病院の4病院。言語は中国語、英語、韓国・朝鮮語の3言語で実施。また、2008年度より病院による経費負担を開始し、2010年度より病院が通訳派遣費用の5割を負担。2013年度には京都市立病院への派遣を週1回固定型(中国語)から週2回固定型(中国語)へ拡充した。2016年度には、市立病院の英語固定日を設けた(週1回)。

②コリアンサロン「めあり」(予算=10千円)

日本と深い関係を持つ朝鮮半島の歴史や文化の紹介、在日コリアンに対する理解の促進を目指す文化事業。韓国民団京都府本部、朝鮮総聯京都府本部、当協会の3団体が共同で継続的に実施。ハングル塾(入門・初級・中級/有料)を主たる事業として運営する。

③市立小中学校日本語ボランティア（再掲）

④外国人のための住宅支援事業

新規に来日する外国人及び「留学生 30 万人計画」並びに「京都市国際化推進プランでの留学生倍増（1 万人）への取り組み」により増加が予想される留学生等の住宅確保の課題に対応するため、日本賃貸住宅管理協会等と連携し住宅支援事業を行う。近年、多言語対応可能な不動産業者が増えているため住宅紹介は原則業者に任せることにし、協会は業者の紹介を中心に行う。

a.外国人向け住宅情報の提供

日本賃貸住宅管理協会と協働で運営する「外国人のためのお部屋情報 House Navi」で、物件情報及び多言語対応可能な不動産業者の情報を提供する。

⑤外国籍市民行政サービス利用等通訳・相談事業（再掲）

⑥災害時における外国人支援（kokoka 防災訓練を含む）

（予算＝565 千円）

近畿地区の地域国際化協会が、広域的な災害時に外国人支援協力体制について協定を締結したことに伴い京都地域での日頃からの備えや体制を整える。

a.災害ボランティア登録（再掲）

b.地震・緊急時行動マニュアルの配布。

災害発生時に役立つ情報を掲載した多言語によるカードの配布。

c. kokoka 防災訓練の実施。

大規模災害時「避難所」指定の当館で外国籍市民と地域住民がともに防災訓練を体験、非常時の行動指針を学ぶ。

d.多言語便利情報（外国籍市民向けメールマガジン）の運営

災害に関する様々な情報（地震、気象等の最新情報）をはじめ、外国人に役立つ情報を携帯電話にメール配信するシステムを、やさしい日本語、英語、中国語の多言語で運営し、災害時の外国籍市民への支援体制を強化。

e.「京都市総合防災訓練」に地域在住の外国籍市民とともに参加、大規模災害発生時の様々な状況を体験により防災意識を向上。

f.2014 年度作成の『KYOTO 避難所 Map』（大規模災害時の京都市内避難所・広域避難場所地図（日英版））の配布。（再掲）

⑦多文化コミュニティ協働事業（予算＝143 千円）

「きょうと外国人支援ネットワーク」（15 団体参加）との協働事業として、一般市民を対象としたイベントを実施。京都地域に存在する外国にルーツを持つ人々のコミュニティ（多文化コミュニティ）のネットワークづくりや、一般市民との交流促進をめざす。（年 1 回）

⑧グローバル婚活 koko コン （予算＝1,031 千円）

グローバルなパートナーとの出会いをプロデュースし、異文化に触れることで視野が広がり自然に国際交流、多文化共生を体現する機会とする。婚姻への既存の画一的なイメージから事実婚や自由なパートナーのあり方等多様な人生観を共有できるようにし、既存の概念にとらわれず、新しい価値観を発見できるグローバルな視野を持つ人間づくりを支援していく。また、外国人がより多く社会と接点を持つことで、地域社会に活力が生まれるよう長期的には外国人の定住化を支援し、次世代のグローバル人材の育成につなげていく。婚活パーティに加え、対象層（30～40代）をターゲットとしたセミナーを年2～3回実施。

⑨区民体育祭への参加 （予算＝6 千円）

kokoka 京都市国際交流会館の所在地である鳥居町の一員として、外国籍市民が東山錦林学区区民体育祭に参加。外国籍市民と地域住民との交流促進を目的に実施。

5. 留学生との協働・留学生への支援・留学生との交流事業

(1) 留学生への支援・留学生との交流関連

①留学生スタディ京都ネットワークへの参画 (予算=0円)

京都地域における留学生の誘致及び受入体制の整備や留学生の知識・経験を地域の国際化・活性化に活かすための仕組みづくりをオール京都で取り組み、「大学のまち・学生のまち」としての京都の魅力向上を図ることを目的に設置された「留学生スタディ京都ネットワーク」へ参画し、留学生関係の各事業を協働で推進。

②京都市外国人留学生国民健康保険料補助事業 (予算=13,000千円)

京都市国民健康保険に加入している私費留学生に対し、大学等と協力して国民健康保険料の一部を補助することで、国民健康保険への加入を促し、留学中の健康不安の解消、日本での生活を側面から支援。

1ヵ月700円。

③留学生就職支援事業 (予算=42千円)

留学生は日本での滞在を通じ、わが国の社会・経済に対して幅広い認識を持っており、語学力を含めて優秀なグローバル人材として大きな力を有している。積極的に人材を求める企業への就職の機会を促進するため、2013年度以降の実績を踏まえ専門の企業との協働で支援を継続展開。併せて、企業と留学生との情報交換 Web サイト“World Stage”を運営

a. Global Kyoto Project ユニバーサルキャリアシンポジウム

b. Global Kyoto Project ユニバーサルジョブフェア

併せてジョブフェアに向けての留学生 OB/OG ミーティング等イベントを実施。

c. 恒常的に留学生と企業が情報交換できるサイト“World Stage”の充実

④外国人のための住宅支援事業 (再掲)

⑤外国人歓迎会 (welcome party & seminar) (予算=332千円)

来日して間もない外国人 (3ヵ月以上滞在予定者) が、京都での生活に円滑に適応できるように歓迎会を開催し、早期の段階で生活に関する情報を提供するセミナーを実施。長期滞在中発生する可能性のあるトラブルを未然に防止するとともに、kokoka 京都市国際交流会館を知ってもらうことを目的とする。第2部では、友達づくりのためのパーティを実施。日本人も参加可とする (有料)。当協会で作成した「留学生のための生活オリエンテーション DVD」(日本語・英語版及び中国語版、韓国・朝鮮語版)を活用。

⑥張鳳俊奨学基金奨学金支給事業 (予算=3,048千円)

京都で勉学に励むアジア出身の女子私費留学生の生活を支援するために、故張鳳俊氏の申し出により設立された基金より奨学金を支給。

a. 月額5万円 年間5名程度

⑦京都留学生情報サイト「優待プログラム」(予算=1,531千円)

京都の大学及び日本語学校に在籍し、将来それぞれの国と京都とをつなぐ架け橋となる留学生に対し、協会事業を中心に有益な情報を一元化して提供する。

留学生向け事業情報を掲載した「留学生お得だねっと」、アルバイトや地域活動及び企業のインターンシップ受入れなどの情報等を登録し、人材の活用ができる「kokoka 留学生ねっと」、「留学生情報リンク集」の3つのコンテンツで構成されている HP「京都留学生情報サイト」の運営、Facebook「京都留学生同窓会」を活用した情報発信、及び下記事業を実施する。

a. 「留学生優待プログラム」

・「留学生おこしやす PASS 京都」の発行

京都市の文化施設等の入場を無料とする。

対象施設 元離宮二条城、無鄰庵、京都市美術館、京都市動物園、京都国際マンガミュージアム、京都大学総合博物館、京都万華鏡ミュージアム、京都市青少年科学センター、立命館大学国際平和ミュージアム、大谷大学博物館、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、梅小路公園朱雀の庭・いのちの森、京都府立植物園、嵐山モンキーパークいわたやま、京都市学校歴史博物館、旧三井家下賀茂別邸、岩倉具視幽棲旧宅

実施時期 7月・8月、1月・2月(嵐山は4月～3月の間に一度)

・イベントへの無料招待

京都市交響楽団定期演奏会(年6回程度)

市民狂言会(年4回程度)

京都創生座(年1回程度)

京都市立芸術大学音楽学部定期演奏会(年2回程度)

時代祭(10月)

弥栄会館ギオンコーナー

b. 「kokoka 留学生ねっと」

(正式名称:京都市留学生いきいき人材バンク)

企業でのインターンシップや地域活動など、留学生の就職や社会参加につなげるため、「自らの力を発揮したい留学生の情報」と「仕事や社会活動等において留学生の力を活かしたい企業、学校、地域等の情報」の交換を行う。

※登録数:留学生737名 企業等144団体(2017年2月17日時点)

c. 留学生情報リンク集

外国籍市民の生活を支援するサイト、京都地域の大学関連サイト、観光情報サイト、国際交流団体などのリンク集。

d. 情報発信事業

Facebook や Twitter 等のソーシャルネットワークを活用し、京都を離れた留学生に向けて京都の情報を発信していく。

⑧国際理解プログラム「PICNIK」(再掲)

⑨留学生交流ファミリー（再掲）

⑩来日直後の留学生支援「ウェルカムパッケージ」

（予算＝2,000 千円）

初めて来日する留学生の生活上の不安をできる限り取り除き、勉学に専心できる環境を整えるとともに、日本人学生等市民との交流を育む契機とするため、以下のとおり来日直後の留学生に必要な行政手続きや生活ルール等に係る情報提供やサポートを行う。

<内容>

- a. 来日直後の留学生に必要な情報の提供
 - ・京都市作成「京都に来てから 1 週間」
 - ・「京都市生活ガイド（英・中）」を当該年度後期入学の留学生へ配布。
 - ・その他留学生支援関連で重要度の高い広報物の配布
- b. ガイダンスの実施
 - ・来日直後の手続き、緊急通報、ゴミの出し方、自転車のマナー、その他留学生支援施策など
- c. 区役所手続き等，新入留学生をサポートする学生チューターへの支援
 - ・京都市作成「区役所手続きサポートの手引書」の作成、
 - ・「日本人チューターPASS」の配布
 - ・京都市国際交流協会「外国人歓迎会」への招待
- d. 京都市国際交流協会「外国人歓迎会」（再掲）

7. 姉妹都市コーナー・展示室の運営

(1) 姉妹都市コーナー・展示室の運営 (予算=112 千円)

京都市の各姉妹都市のパネル・工芸品等を展示する常設展を実施するとともに、年間約 20 回程度、国際交流を目的とする企画展を実施。外国籍市民、特に留学生による作品の発表の場としても積極的に活用。

8. kokoka 京都市国際交流会館の運営

(1) kokoka 京都市国際交流会館指定管理受託事業 (予算=87,052 千円)

①施設管理及び貸出施設の運営。

新規利用者及びリピーターの獲得に努めるために利用者のニーズに沿ったサービスを提供。

施設の予約状況をホームページで公開。

各貸出施設において情報通信網 (LAN) を、ロビーで無線情報通信網 (wi-fi・無線 LAN) を無料で提供。

貸出施設の継続利用者等に月極の有料ロッカーの貸出。

2017 年度の収入目標 41,986 千円

②kokoka 京都市国際交流会館の前庭の活用

前庭を活用し利用者増を図るとともに賑わいを作り出す。

- a.前庭の円形ステージ等を広く市民に開放。前庭の賑わいを作り出す。
- b.前庭にオープンカフェを設置
- c.前庭のライトアップ

③団体事務室の入居団体及びレストランとの連携

団体事務室に入居している国際交流基金京都支部、京都国際文化協会、国際教育交換協議会及びレストランと連携し、利用者増につなげる事業を実施。

④京都岡崎魅力づくり推進協議会への参画

岡崎地域の各施設 (京都市美術館、京都市動物園、京都会館、みやこめっせ等) で運営している京都岡崎魅力づくり推進協議会で中心的な役割を果たしつつ岡崎地域の活性化を図る。